

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 古い貴重な写真7枚（東京天文台100周年記念誌資料2-1-7）**

東京天文台100周年記念誌資料の整理をしており、次々と資料について記事を書いている。今回は東京天文台100周年記念誌資料—その2—のダンボール箱の菓子箱に入った多数の写真の一部で、アーカイブ新聞第349号のリストでは、

1) 紙箱入り写真

7. ブローニ版ネガ7枚（古い26吋ドームなどが写っている）

と書かれたもので、古い写真をブローニ版ネガで複製したものと思われ、これらはすでにほかの形で発見され、アーカイブ新聞にも掲載されたものであるが、東京天文台100周年記念誌資料として独立に、ネガフィルムとして出てきたものなので記録にとどめデジタルデータとして保管することとする。



写真1

写真1は、ブラッシャー天体写真儀の2階ベランダから撮影した写真を3枚繋いだものである。65cm望遠鏡ドームの左に3本、右に1本の三鷹国際報時所の60m鉄塔が写っている。また太陽分光写真儀室の上には一等三角点「三鷹村」上に組まれた櫓が写っている。北に延びる道路の左側にはわかりにくい旧本館が建っている。その道路の右には第一赤道儀室が見える。当時、東京天文台キャンパスは森ではなかった様子がよくわかる写真である。65cm望遠鏡ドームには窓がはっきり写っている。

写真2は、本館玄関屋上のバルコニーから南西を向けて撮影されたもので、富士山が写っており、山々の名前を入れた紙片（写真3）が別の場所から見つかった。この写真の上に山々の名前を書いたトレーシングペーパーが被せてあり、それをめくって複製した様子が分かる。これを見ると玄関屋上から撮ったと書かれており、26吋ドームの左には櫓が書いてある。この櫓は写真を見た時にははっきりしなかったが、ドーム建設時の櫓が残っていたのかもしれない。その部分を拡大したものが写真4である。



写真 2

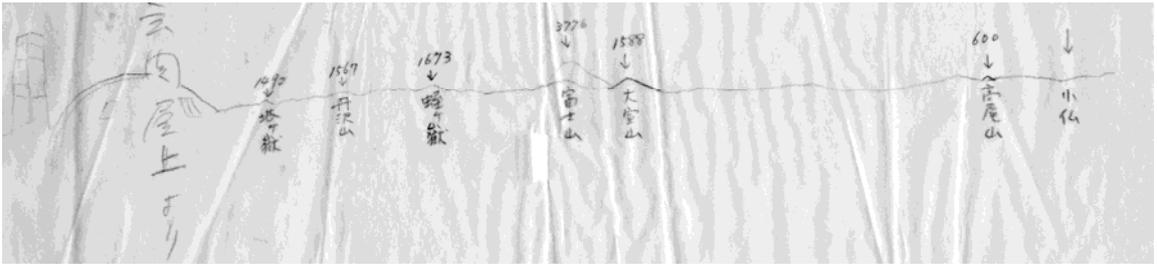


写真 3

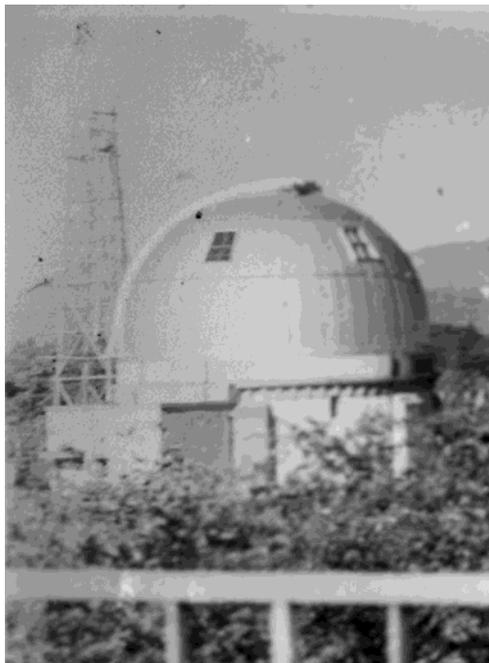


写真 4



写真 5

写真 5、この写真は、三鷹国際報時所の 60m 鉄塔の上から撮影された写真と思われるもので、アーカイブ室新聞に何度か登場している。



写真 6

写真 6 は、沈さんの来訪記念の写真であり、名前を記した紙片が別のところで見つかっている。前列左から、梅本、早乙女、沈、平山信、神田、後ろ左から、辻、萩原雄祐、水野、吉田、堀、石井、宮地、寺田、鏑木とある。

写真 7 は、すでにアーカイブ新聞に掲載された写真であり、26 吋望遠鏡ドームの左に 60m 鉄塔の一本が見えている。写真 8、9 は同じネガが 2 枚あったもので、今回は初登場の写真である。後ろに櫓が写っているが、一等三角点「三鷹村」お櫓ではなく、この写真は麻布時代のドームで、東京天文台 90 周年記念誌に掲載されており、「麻布時代の天体写真儀室」

とある。90周年記念誌にはこの写真は左右が逆になっている。



写真7



写真8

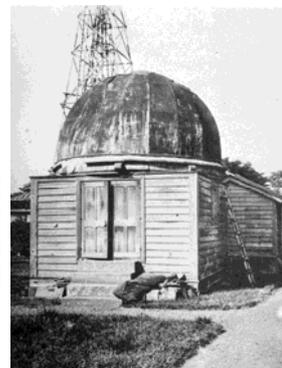


写真9

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp